

# I J U～良住～ 新たな風を吹かす

東海大学 政治経済学部政治学科

岡本ゼミナール（指導教員：岡本三彦）

代表者氏名：大曾根直樹

発表者（参加者）氏名：岩本奎昇・大池龍馬・大久保智基

榊原一馬・藤井優斗・村中俊哉

## 《目次》

梗概

第1章 上田市の課題及びテーマの定義づけ

1節 上田市の現状分析

2節 上田市の課題

3節 テーマの定義と狙い

第2章 I J U～良住～ について

1節 テーマ背景・政策概要

2節 ターゲット

3節 住宅の詳細

4節 子育て世帯詳細

第3章 運営方法

1節 運営の仕組み

2節 政策の展望

第4章 明日への希望

1節 政策効果の事例（神奈川県秦野市の事例）

2節 政策効果について

3節 事業に対する課題とその解決

4節 テーマとの整合性

第5章 統括

〈参考文献〉

## 梗概

私たち岡本ゼミナールは、「人口減少時代の持続可能なまちづくり」というテーマに基づき、「上田市移住体験プロジェクト」を提案する。

「上田市移住体験プロジェクト」は、上田市が移住者に行ったアンケート調査から移住する際にあつたらよかったと思う支援の一つとして「移住体験住宅や移住者向けの住宅」という声を拾い上げ、上田市の人口減少問題を移住という観点からアプローチしていくものである。

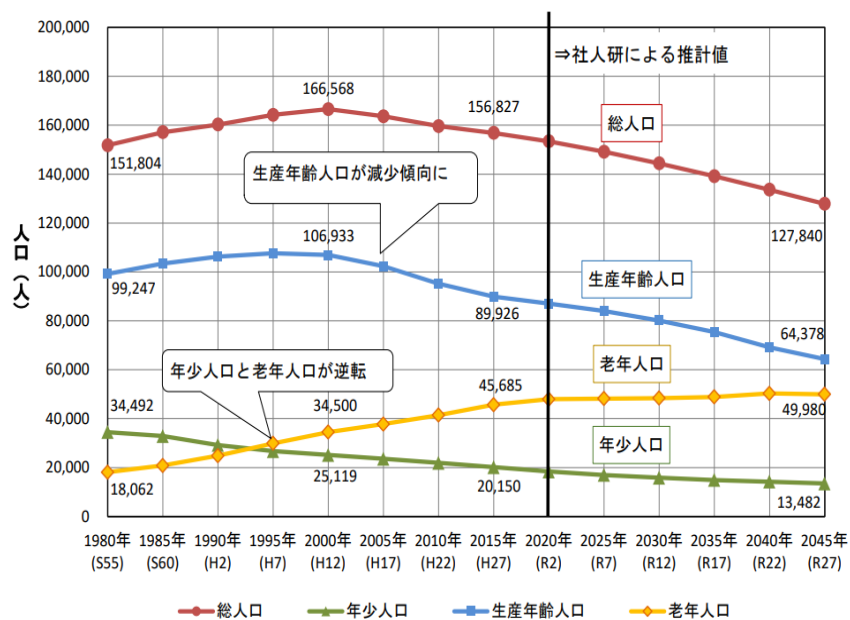
「上田市移住体験政策」は、「集合住宅体験プラン」である。「集合住宅体験プラン」は、新たに移住体験者(以下体験者)に向け集合住宅を建設し、そこに体験入居をする仕組みである。「上田市移住体験プロジェクト」は、移住を考えている人が実際に生活を体験し、安心して移住してもらうことを目指す。第1章では、上田市の人口や移住者数を中心に取り上げることで、上田市の現状と課題を整理する。第2章では、「上田市移住体験プロジェクト」に関する提案内容を具体的に説明する。第3章では、上田市の運営の仕組みと本政策の展望を整理する。第4章では、本政策の効果を他の自治体の事例を取り上げながら説明している。また、本政策によって発生すると考えられる問題についてのアプローチや、本政策が「人口減少時代の持続可能なまちづくり」というテーマにどのように関わっているのか説明していく。

## 第1章 上田市の課題及びテーマの定義づけ

### 1節 上田市の現状分析

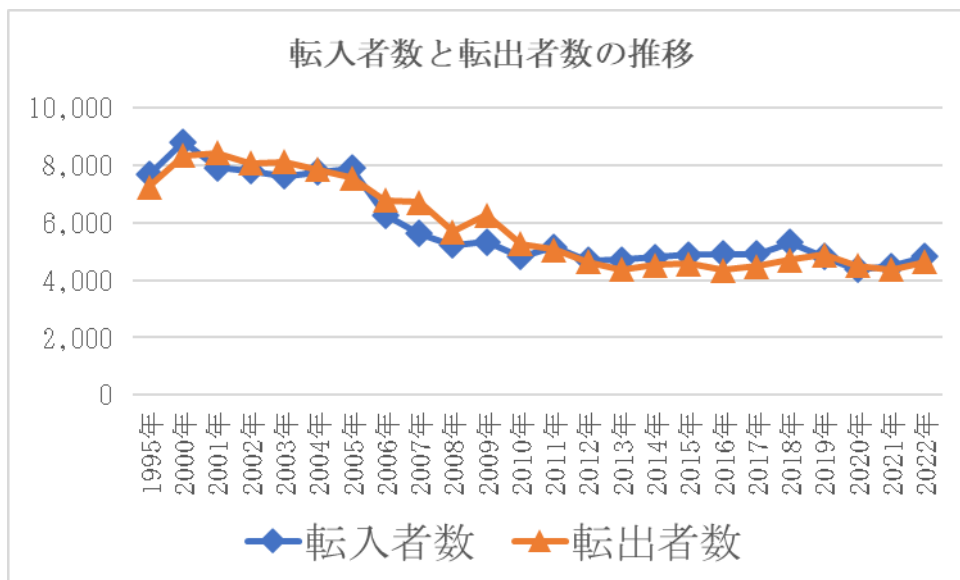
上田市は、長野県東部にある中核都市である。同市は2006年3月に上田市、丸子町、真田町、武石村が合併して誕生した市であり、また、数多くの歴史的文化遺産や特色ある伝統行事、国指定の二つの高原に代表される雄大な自然、由緒ある温泉等々、地域の個性が際立つ豊富な観光資源をもち、それぞれが四季折々の多様な彩りある景色が人々を魅了する。

まず人口に注目する。人口数のピークである2000年と2023年の各人口構成を比較すると、生産年齢人口は106,933人から87,772人に、年少人口は25,119人から17,550人とそれぞれ減少している。一方、老年人口は34,500人から47,507人へ増加している。また、2045年の生産年齢人口は64,378人、年少人口は13,482人とそれぞれ減少し、老年人口は49,980人に増加すると予測されている。これにより、総人口を占める生産年齢人口と年少人口の割合は減少しつづけ、老年人口の割合が増加し続けることが考えられる。さらに、人口統計からも読み取れるように、上田市は人口減少が進行していくことがわかる。(図1)



「図1 総人口・年齢3区分別人口の推移」【出典】上田市人口ビジョン

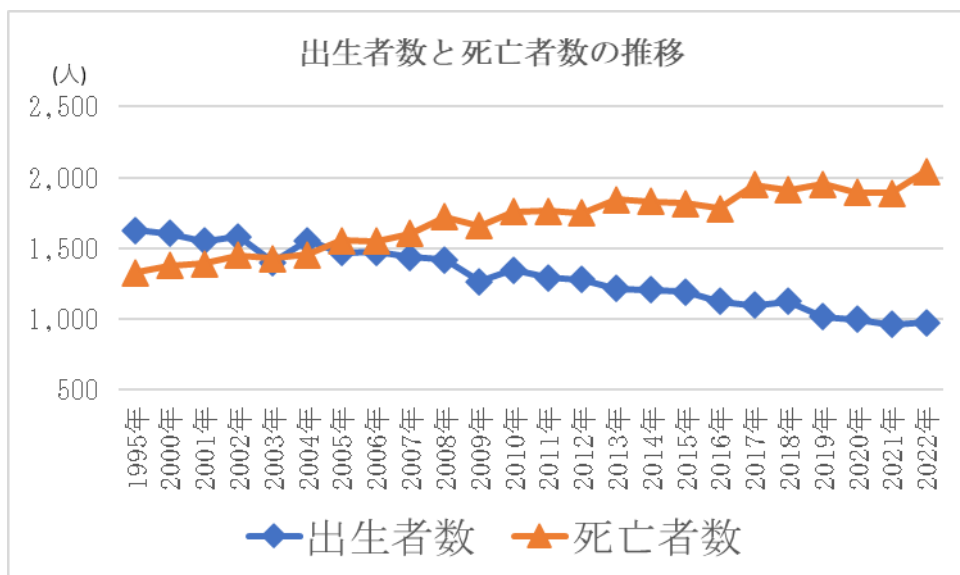
次に移住者数に注目する。転入者数と転出者数の推移(図2)を見ると、2000年までは転入者数が転出者数を上回る社会増となっていた。しかし、2001年を境に転出者数が転入者数を上回るようになり、社会減となる年が多くなり始めた。2011年から再び転入者数が転出者数を上回るようになり、2022年のデータからも転入者数が転出者数を179人上回っている状態である。しかし図2からも読み取れるように、転出者数と転入者数では、大きな差はない現状である。



「図2 転入者数と転出者数の推移」【出典】「上田市の統計」年別データから筆者作成

## 2 節 上田市の課題

私たち岡本ゼミナールは上田市で人口減少が進行している課題の根本は、少子高齢化により出生者数が死亡者数を上回る「自然減」の状態が継続していることが原因だと考えた。



「図3 出生者数死亡者数の推移」【出典】「上田市の統計」年別データから筆者作成

出生者数と死亡者数の推移(図3)を見ると、2001年までは出生者数が死亡者数を上回り、自然増となっていた。しかし、出生者数は減少し、一方で死亡者数は高齢化により増加していることから、2002年を境に死亡者数が出生者数を上回るようになり、自然減へと転じた。それ以降、出生者数と死亡者数の差が徐々に拡大しており、自然減が年々加速

している状態である。また、2023年10月現在においても、高齢人口は30%以上と多く、これからも自然減がさらに進行していくことが推測される。自然減という現状に対し、どのように対処をしていくかが今後の課題である。

次に、人口の増減に大きく関わる移住者数に関しての課題点を確認する。上記で触れたように転入者数は微増傾向にあるが、自然減の割合が高く、結果的に人口減少が進行している。また、上田市に移住をした人に対し行ったアンケート結果では、移住をする際にあったらよかったと思う支援の中に、「移住体験住宅」が挙げられていた。このような支援が上田市内に整備されていない点が大きな課題である。

これらの課題点から持続可能なまちづくりを実現するためには、積極的に転入者の呼び込むことが人口増加における最重要事項だと考えられる。そして人口が減少していく中で、更なる転入者を呼び込み、安心して上田市に移住できるような環境を整備することが必要である。

### 3節 テーマの定義と狙い

第2章で政策提案をするにあたり、岡本ゼミナールが考える「人口減少時代の持続可能なまちづくり」とは、市営住宅を利用した移住者用体験住宅を上田市内に整備し、移住者数増加を図り人口減少時代にアプローチすることである。そこで私たちは、「持続可能なまちづくり」を人口減少のスピードを低下させることだと定義した。『上田市ひと・まち・しごと創生総合戦略』から、上田市が現在抱える多くの問題を解決していくためには人材の確保が最重要であることが読み取れる。そのため私たちは、人材を確保するために移住者を呼び込むことが最善の策だと判断した。

本政策の狙いは、門戸を広げ新規移住者を開拓し、移住者のニーズに応え、政策の発展に繋げ、結果的に移住者を増加させることである。また、移住者の中でも特に子育て世帯に目を向けたことで、幼い頃から上田市に住んでもらい定住に繋げることができるのではないかと考えた。また、コンセプトの中にある「安全・安心な快適環境のまちづくり」という観点から移住者と上田市の相互的なコミュニケーションを図ることができる。

## 第2章 I J U～良住～ について

### 1節 テーマ背景・政策概要

1章でも触れたように、第一回上田市移住者アンケートの結果によると、上田市に移住してきた人たちがあったらよかったと思う支援の中に、移住体験住宅や移住者向けの住宅の整備が挙げられていた。同アンケートの回答者の移住スタイルはIターンが5割強と、移住者の約半数が上田市について詳しく知らない人が多いため、街の雰囲気や生活スタイルを知ってもらうには必要不可欠な政策と考える。

そこで私たちは、アンケート結果の声が多かった移住者向け体験住宅を整備する「上田市移住体験プロジェクト」を「I J U～良住～」と名付け、これを提案する。「I・J・U」は移住とIターン・Jターン・Uターンの頭文字とかけたもので、上田市に縁がある人・ない人に関わらず全ての人を対象とし、より良い住生活を提供する意味で「良住」と

名付けた。また、サブタイトルの「新たな風を吹かす」とは移住者や上田市、上田市民など本政策に関わる全てのものを指す。移住者は自身の経験や価値観を上田市に取り込むきっかけを作る。一方、市や市民も移住者をただ受け入れるだけでなく、移住者が少しでも上田に慣れるように後述する政策を打ち出す。このように本政策に関わる全てのものが、移住というイベントをきっかけに上田市に新しい風を吹かせることから政策名の後に「新たな風を吹かす」と付け加えた。

本政策は移住者体験住宅をアパート型の新築集合住宅（以下集合住宅）を新築し、一定の体験期間を経た上で上田市への本格的な移住を判断してもらうものである。

## 2 節 ターゲット

本政策のターゲットは、上田市への移住者、その中でも子育て世帯である。まず、移住者を前提としたのは、上記の梗概にもあるように本政策は、移住者があつたらよかったと思う政策として挙げられており、その声に応える重要性は極めて高いといえるからである。加えて上田市には、行政の進めている政策と移住者とのミスマッチを防ぐことができるというメリットがある。転居は人生においてターニングポイントとなる。私たちは、一定の期間を通じて自分達が将来暮らすかもしれない地域について詳しく知ってもらうことが重要であると考え、これらを踏まえて移住体験を経て定住を決めてくれた移住者は、少なくとも市の方針や環境に賛同、または好意的であるといえる。そして本政策は、第二次総合計画にある『魅力ある都市上田』として市内外に広く発信することができる。

次に子育て世帯に目を向けた理由として、持続可能なまちづくりを目指していく上で子育て世帯の移住は欠かせない要素だからである。今回の公共政策フォーラムのテーマにもあるように人口減少時代を見据えたまちづくりを行なっていく中で、減少スピードを低下させていくことが極めて重要になってくる。そこで幼い頃から上田市に住んでもらい定住させることを目標としている。

図1の推移より、これからも上田市は人口減少へ向かっていくことが推測される。現状のままでは、年少人口と生産年齢人口は更に減少していき、総人口の更なる低下が考えられる。この状況を打破するためには、市外から上田市に子育て世帯を中心とした移住者を呼び込む必要がある。

## 3 節 住宅の詳細

市内数カ所に整備する予定とし、その場所は、駅の近くや郊外の国道沿いの市街地や自然豊かな公園の近く、医療施設などの近くが体験者にとって使いやすいと判断した。家賃はエリアや部屋の間取り、階層などによって異なるように設定する。移住体験を行う上で体験者の生活になるべく支障をきたさないようにするため、全部屋にテレビや冷蔵庫、イ

ンターネット環境などを整備する。

加えて、本政策は子育て世帯をターゲットとして設定しているため、各部屋の防音設備の強化やパーティールームの設置、さらには共用スペースをフラットな構造にするなど幅広い子育て世帯に寄り添った空間を提案する。

なお、私たちは上田市で生活していく上での良し悪しを知ってもらいたいと考えているため、数日から長期まで複数のプランを想定しており、移住者の多様なスタイルに対応できるようにする。他自治体は短期的なプランをメインで行なっているところもあるが、上記でも述べたように、移住者と市の間でミスマッチが起こるのを防ぐためには、生活サイクルや自然環境を体感することが重要である。特に季節の移り変わりは地域によって差があるので、長く上田市で暮らしていくにはそれを肌で感じるべきだと考える。そのため、他の事例より長い体験期間を設定することが妥当であると判断した。

#### 4 節 子育て世帯の詳細

「I J U～良住～」政策の入居者の選定には次の条件を満たした世帯のみとする。

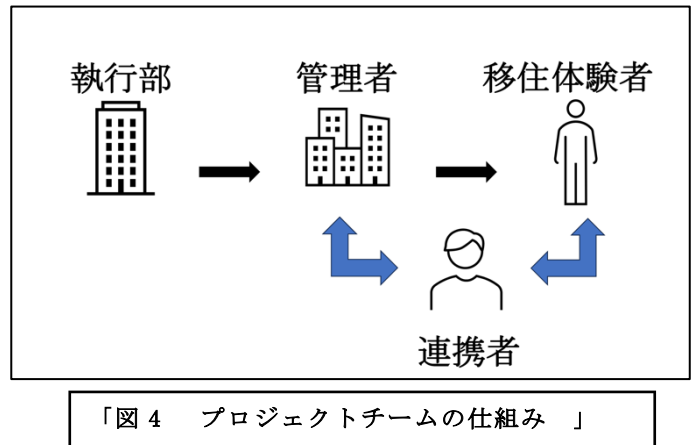
まず、子育て世帯の対象は、6歳以下の子どもが1人以上いる家庭とする。なお、応募数を超えた場合に所得の制限を適用する。子育て世帯の対象を6歳以下の子どもを1人以上いる家庭とした根拠は、市内で小学校入学を迎える時期までに移住できれば、新しい環境で幸先の良いスタートを切ることができると考えたからである。一方で、12歳、15歳以下までを対象にした場合、高校進学や大学進学など3年単位で市外へ転出してしまう可能性が考えられる。また、所得による制限を設けないのは、本政策は現在上田市が行なっている公営住宅事業とは異なり、移住者促進を目的としている。そのため、所得による制限をかけないのが妥当だと判断した。ただ、公営住宅は、低所得者の救済を目的としている側面があるため、形式上所得制限を設定し、応募数が規定の数を超えた場合にこれを適用する。

この条件で事業を開始していく中で稼働率が芳しくない場合は段階的に条件の緩和を進めていくことを提案する。第一に、子どもの対象年齢を15歳以下に引き上げる。上記で述べたように市外へ転出してしまう可能性が考えられるが、子どもは将来の地域社会を担う存在である。そのような貴重な若者を確保するのは極めて重要なことである。第二に、所得制限を大幅に引き上げることによる事実上の撤廃。元々所得の制限は、選定の優先事項として重要視していなかったからである。第三に、子どもの有無を選定条件からの除外。これらを順に行うことを検討している。本政策は、市外からの移住者の呼び込みが最優先事項であるため、家族構成や年齢に関係なく、上田市に興味関心がある全ての人を対象として広く受け入れる必要があると考える。

### 第3章 運営方法

#### 1節 運営の仕組み

本政策は、執行部<sup>i</sup>、体験住居管理者、連携者<sup>ii</sup>、移住体験者で構成される「IJU～良住～プロジェクトチーム」を設立する。(図4) このチームを設立した目的は、迅速に政策を実施するためであり、市役所、体験者共に手続きの効率化を図る。また、市役所や体験者とのやり取りだけではなく連携者を取り込み、上田市全体で体験者に対して向き合うことを目的としている。具体的な運営方法は以下の通りである。



まず、「IJU～良住～プロジェクトチーム」を統括する執行部は、体験住宅を整備、定期的に連携者と体験者との座談会を主催、連携者の公募などを行う。

次に、移住体験施設の運営方法について述べる。執行部が整備した住宅を各自治センターが主体となって管理し、体験住宅の管理責任者としての役割を担当、執行部が主催した座談会を運営する。また、2章で述べた条件に基づいて体験者の選定を行う。

最後に、「IJU～良住～プロジェクトチーム」内での連携者の役割を述べる。連携者は、執行部が各地域の自治センターにて開催する座談会に参加する。そこで、体験者と直接コミュニケーションを取り、移住体験を通じて移住後の生活や子育てに対する疑問点などを共有する役割を果たす。また、連携者は体験者から受けた不安や疑問を管理責任者に共有する。

#### 2節 政策の展望

本政策の今後の展望について「IJU～良住～」、「集合住宅プラン」をそれぞれ3段階に分けて詳細を述べていく。

まず、「IJU～良住～プロジェクト」の第1段階として、上田市民の理解向上とIJU～良住～プロジェクトの認知を目的としている。第2段階では、始動した「集合住宅体験プラン」が安定して運営できることを目標にする。第3段階では、上田市全体に～良住～プロジェクトを普及させ、様々なニーズにあった移住体験住宅を提供し、上田市への移住増加を目指す。

次に、「集合住宅体験プラン」の第1段階は、体験利用者の増加である。第2段階では、集合住宅の範囲や規模を徐々に拡大させ、上田市全体に普及させる足がかりを作りたい。第3段階では、集合住宅を上田市全域に展開し、上田市のどの地区でも移住体験ができる体制を作り上げることを目指す。

### 第4章 明日への希望

#### 1節 政策効果の事例(神奈川県秦野市の事例)

上田市において、移住希望者に対する体験型の政策をこれまで全く行われてこなかった



わけではない。実例として、「信州上田のぞき見ツアー」の取り組みや毎年幾度も開催される「移住相談会」など、市外の人へ上田市の魅力を発信する取り組みがある。しかし、実際に移住者してきた人の声では「車で移動する生活になり、通勤や買い物が便利になった。店が閉まる時間が思っていたより早い」「自然が身近にあるのがとてもよい。子供との遊び方が自然のなかで遊ぶことになった」このような声は、実際に住むことで気付くことである。また、「移住体験住宅の設備」や「移住者向けの賃貸があればよかった」という声もあり、移住前に体験の場を設けることで上田市の魅力を知ってもらうと同時に、「移住のしやすさ」という面に対してハードルが低くなると考えている。これらの点から移住体験住宅の効果に着目していく。

移住希望者に向けた体験住宅の取り組みに関し、先行事例となりうる市町村として、神奈川県秦野市を取り上げる。秦野市の移住住宅を事例として選んだ理由は、移住者政策の中に子育て世帯の移住者に向けた移住住宅があり、選定条件として世帯主及びその配偶者が扶養している子が小学校卒業前の児童のみである夫婦を対象としているからである。この政策は、私たちの政策案と近いと考えたので事例として取り上げる。また、歴史と伝統・文化があり、自然環境が恵まれているので市の雰囲気も近く、県庁所在地からのアクセスや総人口、世帯数が上田市と近い規模の市である。しかし、自然減により人口減少が起きている現状もある。これらの理由から上田市と秦野市は類似している部分が多々あるので選択した。

私たちが取り上げる事例は、秦野市で行われている市営の定住促進住宅「ミライエ秦野」である。この制度では、秦野市への移住希望者に対して、市内での生活を体験できる機会を提供する「移住お試し住宅」を設置し、一定期間生活体験ができる場を提供することで市への移住促進を図ることを目的としている。また、住宅内に情報交換や交流活動ができる場として、子育て支援センターがあり、子育て環境が充実している。他にも徒歩圏内に商業施設があり、生活にも便利な住居となっている。体験者の声として「豊かな自然と田舎過ぎないところがちょうどいい」「便利な暮らしがしたければ中心部に、田舎暮らしをしたければ周辺部に、と多様な生活ニーズに合うまちだと感じている」という声があがっている。

## 2 節 政策効果について

このように秦野市の事例から見ても、移住体験制度は移住を考えている人に対して前向きな決断をする後押しとなる。また、体験を通じて移住者が市に対して何を求めているかが明らかになることで、市役所にも今後の移住政策を行う上でメリットになる制度だと考えられる。さらには、私たちが提案する体験住宅の取り組みと、上田市で現在行われている移住者への補助金や移住者相談会のアピールを推進していくことで、より移住者を呼び込むことができると考えている。

私たちの提案は、子育て世帯を対象に集合住宅を新築し、一定の体験期間を経た上で上田市への本格的な移住を判断してもらうものである。長野県をはじめ、全国的にも前例が少ない政策となっているが、移住体験の場を設けることで、不安要素を解消し安心して移

住できるため、この政策提案は移住者の増加が見込める。このような集合住宅を上田市内の各エリアへ展開していくことができれば、自然が豊かな地域や市の中心地など移住者の住居のニーズに合わせた移住体験を提供でき、移住を決めるハードルが下がる。

### 3 節 事業に対する課題とその解決

本政策を進めていく上で、いくつか課題が生じる。一つ目は、移住体験中の就業ケアについてである。その場合は公共交通機関を利用して出勤する場合には、その交通費の補助を行うこととする。また、上田市内の企業と提携を結ぶことによって、移住者は新たな就業先の紹介を市から受け、就業に対する心身の負担を軽減することを目指す。さらに、座談会の中で先輩移住者に当時の経験を聞く機会を設ける。

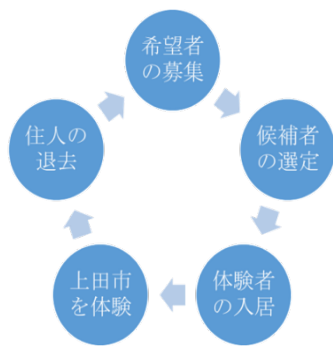
二つ目は、子育てのケア<sup>iii</sup>についてである。体験期間中に指定の病院であれば、共通利用ができる診察券を交付する。また、就業ケアと同様に、座談会の中で先輩移住者に当時の子育て、医療福祉の経験や仕組みを共有する機会を設ける。

三つ目は、移住体験が終了した後、体験者にどのように寄り添うかについてである。移住を決めた人には、市内の公共交通を一定期間無料で利用できるフリーパスを交付する。それを、公共交通で市内の散策や日常生活に活用してもらう。また体験者全員に、上田市のチケット QR サービスを付与して、移住しなかった人には別の機会で後日上田市を訪れてもらうようにする。

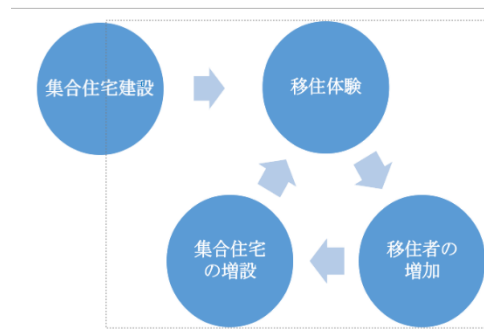
### 4 節 テーマとの整合性

本政策のターゲットである移住者が増加することで、継続的な人材確保という点において上田市の持続可能性に繋がると考えられる。1、2章でも述べたように移住体験プロジェクトを行うことで移住者のニーズに応え、座談会を通じて移住者の不安や疑問を解消し、移住の促進に繋げることが目的である。また、移住者の中でも子育て世帯に目を向けたことで、幼いうちから上田市に住んでもらい定住につなげることができる点も、本政策の持続可能な点である。

第二次上田市総合計画の基本施策の中に移住に向けたシティプロモーションを推進する取り組みが見られ、実際に移住希望者への情報発信や移住希望者を上田市に導かせるための施策について市が積極的に取り組んでいる。このような取り組みを受けて、住み続けたい都市の実現を目指している上田市に私たちが提案する本政策は効果的であると考えた。また、コンセプトの中にある「安全・安心な快適環境のまちづくり」という観点から連携者から移住者へと上田市の魅力や移住に関しての相互的なコミュニケーションを図ることができる。



「図 6 体験希望者の循環図」



「図 7 集合住宅整備プラン」

図 6、7 のように本政策は持続的に移住者に体験住宅を提供することができ、上田市に住みたいと思う体験者の多様なニーズに合わせた、柔軟な政策となっている。特に体験住宅を経て上田市の暮らしや魅力について知ってもらうことで移住後も充実した生活を送ることができる。また、上田市もこのようなサイクルに則り、絶えず移住者の門戸を広げ新規移住者を開拓することができる。

## 第 5 章 総括

約 20 年前から、上田市の少子高齢化が進行し、今後もその傾向は顕著になっていくと予測される。この問題を少しでも解決していくためには生産年齢人口を維持・増加していくことが求められる。しかし、2022 年の厚生労働省の合計特殊出生率の推移は、2021 年が 1.30 であり、2022 年が 1.26 と年々減少傾向にあり、現段階において出生率の増加は見込めない。そのため人口増加を図るためには、上田市外から移住者を呼び込むことが妥当であると考えられる。

そこで私たちは政策として「IJU～良住～」を提案する。人口減少時代の中で持続可能性を追求していくために、私たちは本政策で移住という観点に着目にし、体験者に対するサポートを自治体だけでなく、連携者をはじめとした一般市民も加わり、地域一丸となって体験者や新規移住者を受け入れるものを提案した。本政策を行うことで、体験者が上田市での雰囲気や生活スタイルを知り、その上で一層上田市での暮らしを充実させることが可能であると考えられる。

私たちは体験者と市がより真剣に向き合う機会を設け、双方のミスマッチを未然に防ぐことが極めて重要だと考える。だからこそ私たちの提案には長期的なプランを導入した。これまで上田市が行ってきた政策に私たちなりのアイデアを加え、上田市に移住してきた人が心から良かったと感じるような政策を打ち出した。体験者と市が時間をかけ、その中で市民とも良い関係性を築く「IJU～良住～」政策を強く提案する。

## <参考文献>

- ・ 第二次上田市総合計画  
(<https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/3873.pdf>) (2023年10月20日確認)
- ・ 第二次上田市総合計画 後期まちづくり計画  
(<https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/30026.pdf>) (2023年10月20日確認)
- ・ 上田市立地適正化計画 Q & A  
(<https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/18221.pdf>) (2023年10月20日確認)
- ・ 第二次上田市総合計画 住民アンケート 調査結果報告書  
(<https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/3886.pdf>) (2023年10月20日確認)
- ・ 上田市住民アンケート 調査結果報告書  
(<https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/20275.pdf>) (2023年10月20日確認)
- ・ 上田市の統計  
(<https://www.city.ueda.nagano.jp/soshiki/tokei/3653.html>) (2023年10月20日確認)
- ・ 上田市人口ビジョン  
(<https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/21261.pdf>) (2023年10月20日確認)
- ・ 上田市の統計 令和3年  
(<https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/50544.pdf>) (2023年10月20日確認)
- ・ 上田市ひと・まち・しごと創生総合戦略  
(<https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/3090.pdf>) (2023年10月20日確認)
- ・ 上田市 第一回上田市移住者アンケート結果  
(<https://www.city.ueda.nagano.jp/soshiki/iju/1142.html>) (2023年10月20日確認)
- ・ 地域別、年齢別人口  
(<https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/53892.xlsx>) (2023年10月20日確認)
- ・ 人口、世帯数(推計人口)(出生・死亡・転入・転出・その他)  
(<https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/45941.xlsx>) (2023年10月20日確認)
- ・ 秦野市 人口と世帯数  
(<https://www.city.hadano.kanagawa.jp/www/contents/1632206145393/index.html>)

(2023年10月20日確認)

- ・ 秦野市 移住お試し住宅

( <https://www.tanzawalife.net/miraiehadano.html> ) (2023年10月20日確認)

- ・ レアリア <移住者インタビュー> 都会と田舎の魅力を併せ持つ丹沢のまち秦野  
(<https://rarea.events/event/110967>) (2023年10月20日確認)

- ・ 厚生労働省 令和4年 人口動態統計月報年計の概況

(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai22/dl/gaikyouR4.pdf>  
) (2023年10月20日確認)

---

<sup>i</sup> 移住交流推進課、子育て・子育て支援課、住宅推進課

<sup>ii</sup> 上田市に実際に移住してきた人たち、地域交流アドバイザー

<sup>iii</sup> 移住体験期間中を指す